

## CKD の病診連携における腎臓専門医の役割：From-J 研究での知見を踏まえて一

筑波大学医学医療系腎臓内科学

斎藤 知栄、甲斐 平康、山縣 邦弘

慢性腎臓病（CKD）患者を対象に「かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防の為に診療システムの有用性を検討する研究」

（戦略研究；From-J）は、大規模臨床介入研究として、2007年より5年間の予定で開始された。この研究では、日本腎臓学会により発行されたCKD診療ガイドに従って、かかりつけ医が主に診療するCKD患者約2500人を、診療目標達成支援ITシステム・受診促進支援センター・栄養ケア・ステーションの支援を受ける群（強介入群）と、支援無し群（弱介入群）の2群にわけ、介入期間3.5年間の研究が行われた。現在は5年間までのフォローアップを日本腎臓学会主導により実施されている。本研究では、1)かかりつけ医、腎臓専門医、コ・メディカルが顔の見える形でCKD重症化予防を討論する場としての地域連携ミーティングを通じ、各職種間の緊密な連携の確立、2)生活・食事指導の客観的な評価（チェックリストの客観的な評価）と標準的指導方法の確立、3)生活習慣病関連のCKD患者の行動変容を起こさせるシステムの構築、4)無症状のCKD患者が受診中断しない医療体制の構築などが検討された。その結果をもとにCKDステージ進行抑制、医療費の解析やQOLとの関連調査を通じ、CKDの的確なアウトカム評価を行い、質の高い臨床研究としてのエビデンスを創出することが求められた。

本セッションではFROM-Jにより得られた知見による、かかりつけ医におけるCKD診療体制と腎臓専門医との連携を推進する要因について検討する。